

マネージメント情報

2022年3月



Total Herd Management Service

この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

【乳汁検査まとめ】

はじめに

2019年から2021までの3年間、上半期・下半期に分けて乳汁検査の報告をしています。それぞれの報告は年ごとですので、今回はG(-)菌(※1)の感受性薬剤割合の推移を中心に報告したいと思います。

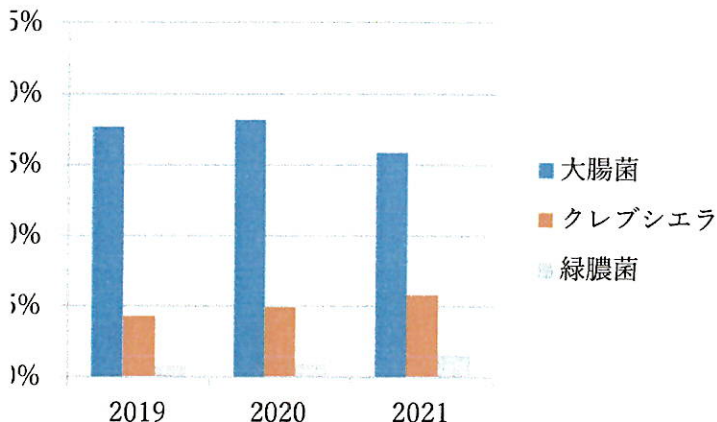
※1 G(-)菌：グラム陰性菌には大腸菌・大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌が含まれます。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC注	OTC軟膏

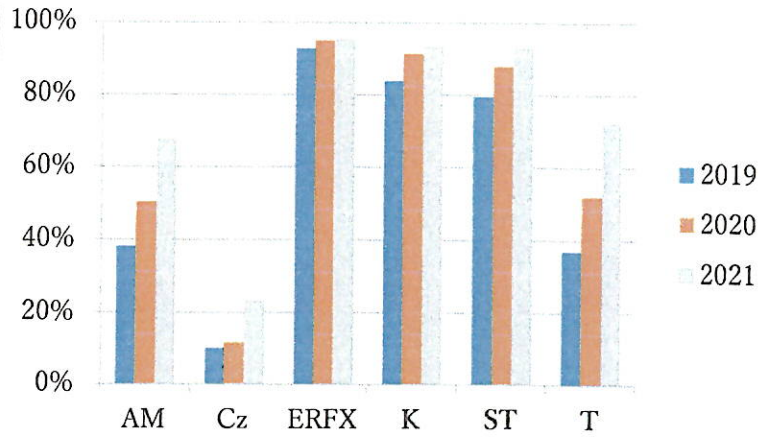
G(-)菌検出数推移

菌が検出された検体におけるG(-)菌の割合をグラフ1に示します。大腸菌が2019年から順に17.7%、18.2%、15.9%となりました。クレブシエラは2019年から順に4.3%、4.9%、5.8%、緑膿菌は2019年から順に0.8%、0.9%、1.6%という結果になりました。検出数は検査数の増加に伴い大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌全てにおいて増加していますが、発生割合はおおよそ一定です。



グラフ1 G(-)菌割合

G(-)菌感受性割合の推移



グラフ3 大腸菌群感受性割合の推移

	2019年	2020年	2021年
AM	38.1%	50.3%	67.6%
Cz	10.2%	11.7%	23.4%
ERFX	92.8%	94.9%	95.5%
K	83.8%	91.1%	93.4%
ST	79.6%	87.7%	93.1%
T	37.0%	51.9%	72.4%

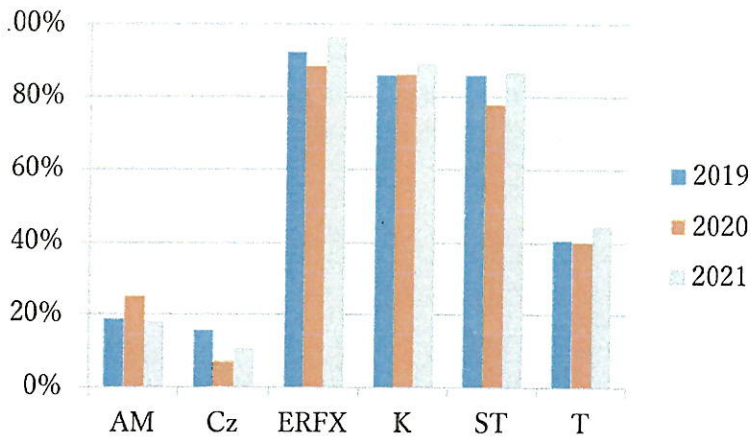
表1 大腸菌群感受性割合の推移

グラフ3、表1に大腸菌群感受性割合の推移を示しました。感受性割合の高いERFX、K、STはいずれも高い割合を示しました。Tは近年、大腸菌性乳房炎に対して抵抗性があり、使用頻度が減少しているために感受性割合が増加していると考えます。



の乳房炎を疑った場合にTを選択するには感受性割合が低いと考えます。次回はG(+)菌について紹介する予定です。

富田大祐



グラフ4 クレブシエラ感受性割合の推移

	2019年	2020年	2021年
AM	18.8%	24.7%	18.2%
Cz	15.6%	7.1%	10.7%
ERFX	92.2%	88.2%	96.7%
K	85.9%	85.9%	89.3%
ST	85.9%	77.6%	86.8%
T	40.6%	40.0%	44.6%

表2 クレブシエラ感受性割合の推移

グラフ4、表2にクレブシエラ感受性割合の推移を示しました。ERFX、K、STは大腸菌と比較すると若干感受性割合が劣るものの、大腸菌同様に高い感受性割合を示しました。Tに関しては大腸菌で見られた感受性割合の上昇は見られませんでした。

緑膿菌に関しては発生数に大きな変動はなく、ERFXのみ感受性があるか、感受性薬剤なしのどちらかです。2021年に弱冠発生数が増えたのは、特定農場で緑膿菌が問題となり、検査数が増加したためです。

最後に

大腸菌に関してはTの感受性割合の増加がみられましたが、クレブシエラに関しては変動がみられませんでした。このことから、大腸菌やクレブシエラ



Total Herd Management Service

退職のご挨拶

この度、私事ではありますが、2月28日をもちまして退職することとなりました。直接のご挨拶が出来なかった方々には紙面にて恐縮ではありますが、報告させていただきます。

トータルハードマネージメントサービスでは6年間、お世話になりました。私の母は釧路出身、祖父母は中標津出身であり、この土地に深い縁を感じながら、楽しく仕事をさせていただきました。

入社したばかりの頃は、右も左もわからず、諸先輩方についていくことに必死だったことを覚えています。皆様には、数えきれないほどのご迷惑をおかけしたと思いますが、優しく、そして時に厳しくご指導いただいたからこそ、今の自分があると深く感じております。

4月からは九州の長崎が拠点となります。九州では、乳牛・和牛を対象とした新たな診療所の立ち上げに参加することとなり、私にとっては今まで経験のない大きなチャレンジです。北海道の地で学んだことを生かし、これからも日本の農畜産業の発展に微力ながら貢献していきたいと思っております。

最後となりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

2022年2月28日 岩澤裕介